

## 地域・社会とともに

地域社会と積極的な対話をし、「ありがとう」を集めます。  
事業を超えて「ありがとう」を集めます。



| 主な取り組み         |             | 2008年度目標  | 2008年度結果                  | 評価                 | 2009年度目標 |                           |
|----------------|-------------|---|---------------------------|--------------------|----------|---------------------------|
| 全社員ボランティア活動    | 全社員ボランティア活動 | ボランティア参加人数(率)(※1)   | 100%                      | 74.4% (1,990人)     | ×        | 100%                      |
|                | 社会貢献活動      | わたり北海道自然学校の開催   | 年1回の開催                    | 年1回の開催             | ○        | 参加者全員が夢作文記入と夢発表           |
|                |             | ワタミふれあいカードでの寄付(※2)  | 国内外食店舗での利用総額の1%相当を社会貢献に使用 | 4,561千円を寄付         | ○        | 国内外食店舗での利用総額の1%相当を社会貢献に使用 |
|                |             | ワタミふれあいカードでの寄付(和民中国)(※3)                                      | 利用総額の0.25%相当を社会貢献に使用      | 38千HK\$ (469千円)を寄付 | ○        | 利用総額の0.25%相当を社会貢献に使用      |
|                |             | ワタミふれあいカードでの寄付(台湾和民)  | 利用総額の1%相当を社会貢献に使用         | 54千NT\$ (752千円)を寄付 | ○        | 利用総額の1%相当を社会貢献に使用         |
| NPO(SAJ)支援(※4) | 継続して支援を実施   | 外店舗での募金箱設置4,175千円<br>従業員から寄付33,517千円<br>グループ各社による法人会員寄付 960千円 | ○                         | 継続して支援を実施          |          |                           |

○達成、×未達成、一該当なし  
 (※1)対象はワタミ(株)、WFS、T.G.I.F.J.、ワタミの介護、(株)ワタミファーム、(有)ワタミファーム、ワタミエコロジー、WTMDの8社  
 (※2)対象は日本国内のグループ外店舗 (※3)対象は、香港・深圳のグループ外店舗 (※4)対象は、国内企業10社

ワタミグループ社員一人ひとりが  
行う社会貢献

ワタミグループは、社会的使命(責任)を果たすためにも、「良き企業市民」として社会とともに生きる企業を目指し、グループをあげて社会貢献活動を実践していきます。

ワタミグループでは、社会貢献活動やボランティア活動とは「何かをしてあげるのではなく、何かをさせていただくこと」により、学び・感動させてもらい、その結果として自分自身が成長することだと考えています。

この考えのもと、社員一人ひとりが、自発的・継続的に社会貢献活動を行うことを推奨しています。

活動は、「グローバル&ローカル」を基本に地球規模的視点で捉え、かつ地域密着型で実践、推進しています。

また、ワタミグループでは、「できるところからコツコツ」という考えのもと、無理をせず、確実に継続することを重視しています。

### 全社員ボランティア活動参加を推進

ワタミでは、「全社員が年に1回はボランティアに参加する」を合言葉として、社員が自主的に参加しやすいように専属の担当者が、全国でのボランティア開催予定を業務改革会議などの各事業の会議体にて案内をしています。

2008年度は1,990名の社員がボランティア活動に参加しました。ボランティア活動を通して、一人ひとりの社員がサービスの原点であるホスピタリティを学び、優しい心を持てるようにと機会をいただいています。

### ボランティア体験を研修カリキュラムに

1997年4月に、横浜ボランティア協会との協力で新入社員が地域の作業所を訪問し、ボランティア活動を行うプログラムを導入。以来、新卒社員の入社時研修として毎年4月に行われています。

2009年度はグループ社員336名が47カ所の作業所・施設で研修を行いました。

### INTERVIEW

#### ボランティア活動推進担当者の声

ワタミ株式会社 人材開発グループ 教育チーム 小島 美恵子

私たちは、施設様から「人として大切なこと」を教えてください。くきかけとして、ボランティアに参加させていただいています。その中でも、お手伝いさせていただいた施設様から、社員の「姿勢」が良いとお褒めの言葉をいただく時があります。ボランティア担当者としてとても嬉しく思います。今後も、社員一人ひとりが、より優しく・強い人として、開花できるようなきかけづくりに努めていきたいと考えています。

### お食事会の開催

ワタミグループでは、ハンディキャップがあるなど社会参加の少ない方を店舗にご招待し、「お食事会を通じた交流会」を開催しています。

2008年度のお食事会は57回開催し、横浜訓盲院、横浜援護授産所の方など1,188名の方々をご招待し927名の社員がボランティアとして参加させていただきました。

### VOICE

#### お食事会に参加した施設様の声

社会福祉法人品川総合福祉センター  
第二かもめ園 施設長(当時) 長岡 真由様



ワタミさんとは、もう10年のお付き合いになります。今回もお食事会に参加させていただき、ありがとうございます。スタッフの皆さまが明るく笑顔で迎えて会話をしてくださったこと、手品やゲームで場を盛り上げてくださったこと、本当に嬉しく思いました。

このような食事会をきっかけとして、地域の中に私たちを知り、支えてくださる方が増えていくことは、本当に心強い思いがいたします。今後とも、宜しくお願いいたします。

### INTERVIEW

#### お食事会に参加した店長の声

「坐・和民」立川南口店 諏訪 育後 店長



横浜訓盲院の方々と実施したお食事会では、お食事だけでなく、クロックのパン粉付けと一緒に行いました。共同作業をすると一気に距離が縮まった気がしました。そして、最後は駐車場まで手をつないでお見送りをしたのですが、子どもたちの手のひらから伝わってくる温かさや感情に、こちらの心まで温まりました。

人間って本当に楽しい時や充実している時にはいい顔をやるんだなあ…と改めて感じました。この気持ちを大切に、他の人のことを真剣に考えることが出来る人を目指し、日々自問自答しながら仕事に取り組みたいです。

### 授産品の代行販売

ワタミグループでは、ハンディキャップのある方々の社会参加の後押しを目的に、1999年6月より「和み亭」店舗にショーケースを設置し、「授産品」の販路を広げるお手伝いをさせていただいています。2008年度は19店舗にて実施させていただき総額534千円の代行販売を行いました。

また、2005年度より、定時株主総会でも授産品を販売するスペースを用意、2008年度は、41施設の方々が出店や代行販売としてご参加くださり、496千円の授産品の代行販売をお手伝いさせていただきました。



### 介護ボランティアの実施

ワタミでは、2006年より外食事業の社員向けに介護ボランティアを行い、レクリエーションやお食事をご一緒するという体験をさせていただいています。2008年度は、22回56名の社員が参加しました。



### 地域清掃・美化活動の実施

外食店舗では、毎日の店舗周辺の地域清掃に加え、全国各地で街の清掃活動を行う団体の活動に参画し、定期的な清掃イベントにも参加しています。

また、ワタミファームでは、山武農場で千葉県横田地区、倉淵農場で群馬県相馬地区、佐原農場で千葉県返田地区、京丹後農場で京都府島津地区で行われる清掃や草刈りのイベントに毎年参加しています。

### 病院ボランティア・施設バザーへの参加

岸和田盈進会病院内、主にターミナルケア病棟(ホスピス)の入所者の方々のレクリエーション、散歩、お食事などのお手伝いを定期的にさせていただいています。

2008年度は、患者様・ご家族様・近隣の方々・病院の職員の方々が参加するバザーに、お好み焼などの模擬店を11回出店し、141名の社員が参加しました。

模擬店での販売額については、合計508千円を主催団体様に寄付いたしました。



### ふれあいカードによる寄付

1996年度より「未来の子どもたちのために」をテーマに始めたふれあいカード(クレジットカード)を通じて、国内ワタミグループでの利用総額の1%相当を社会貢献に使用させていただいています。

2008年度は、NPO法人「スクール・エイド・ジャパン」に4,561千円を寄付させていただきました。また、和民中国においては利用総額の0.25%相当38千HK\$ (469千円)を「児童慈善団体」へ寄付、和民台湾においては利用総額の1%相当54千NT\$ (752千円)を「台湾児童暨家庭扶助基金」へ寄付させていただきました。



## 北海道自然学校の開催

1999年より毎年8月に、小学校4～6年生を対象とした「わたみ北海道自然学校」を開催。子どもたちの持つ「思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝の心、素直さ」など、「人間が本来持っている美しい資質」を高める「きっかけ」を提供できれば、との思いから始まりました。

第11回となる2009年度は「命・自然・友だち・生活習慣・夢との出会い」をテーマに、北海道久遠郡せたな町にて3泊4日で開催され、子どもたちは農作業、搾乳、マリンスポーツ、キャンプファイヤー、夢作文の作成・発表などを体験しました。



## 学生の受け入れ

ワタミファームでは2004年度より、有機農業への理解促進を目的として、学生の受け入れをしています。2008年度は、月に1回山武農場での中学生受け入れや、高校生への農業指導（屋上緑化）を行いました。また都文館夢学園の修学旅行のプログラムの一環として高校生を受け入れ、畑での播種をはじめ牧場での搾乳などを実施しました。



## 農業インターンシップの実施

1999年度より、学生を対象に「農業インターンシップ」を実施してきました。農業インターンシップの目的は、単なる収穫の補助だけでなく、日本農業に対する理解の促進や、若者に「働く」「自然」「農業」「仲間」と向き合う機会を提供することを目的として実施しています。2008年度は、帯広大正農協をはじめ41農家の方々の協力を得て、農産物の収穫や箱詰め作業などの農作業を実施し、99名の学生が参加しました。



## 1%クラブ

1997年8月より、(社)日本経済団体連合会の1%クラブ（経常利益の1%相当額を、自主的に社会貢献活動に支出しようと努める企業や個人の連合会）に加入し、プログラムを推進しています。

1%クラブ <http://www.keidanren.or.jp/japanese/profile/1p-club/>

## VOICE 参加者の親御様の声

佐藤 穂様

「地球上で一番たくさんの『ありがとう』を集めたい』そんな『壮大な夢』を本気で追いかけている企業だからこそ、子どもを託してみたいと思いました。「夢を叶える」と題した作文に書かれた子どもの夢は「人と自然に優しい建築家」。そして彼が描いた「理想の家」には、北海道の大自然の中で、彼が肌で感じた「気持ち良さ」が息づいていました。今まで考えたことなかった自分の将来を見つめる機会を得た子どもは、少し大人になって帰ってきた様に思います。ワタミの皆さん、本当にありがとうございました。

## TOPICS 店長の起案で拡大した社会・環境貢献活動～エコキャップ運動～

ワタミグループでは、本社とワタミエコロジーでペットボトルのキャップの再資源化活動の一環として、「エコキャップの回収」を2006年度より開始しました。

2008年9月には、外食店舗の店長から起案もあり、2009年度には外食・介護事業にも取り組みが広がっています。集まったキャップは、リサイクル資源として売却し、その収益はNPO法人へ寄付されます。

## INTERVIEW 起案した店長インタビュー

「わたみん家」鶴川北口店 山本 隆史 店長



私は、日ごろから営業活動をしている中で、ペットボトルのキャップを捨てているのはエコではないと感じていました。また、ペットボトル本体を回収したとしても完全にリサイクルができる体制が整っていない日本の現状もあります。そんな中で、エコキャップを集めて換金し、途上国にワクチンを送る活動があることを知り「キャップだけでもリサイクルに協力したい!」と思ったのです。

理念研修で直々に提案、賛同していただき、現在、外食事業でも「エコキャップ活動」が広がってきています。私の今の目標は、この活動を全店舗に広げること! そうすることで、多くのアルバイトさんや社員に、環境や社会貢献について意識できるようにきっかけをつくれればと思っています。

## NPO法人「スクール・エイド・ジャパン」の支援

ワタミグループでは、開発途上国の子どものための教育支援を行うNPO法人「スクール・エイド・ジャパン(SAJ)」の活動を、2001年の設立当初から全社員で継続的に支援しています。SAJは、ワタミの社員の発案から設立された団体で、スタート時点ではグループからの支援が中心でしたが、今では一般の方々などたくさんの方々からの支援により運営されている団体です。

<ワタミグループの支援内容>  
 ●外食店舗での募金箱設置(ポスターの掲示)  
 ※2008年度寄付金額4,175千円  
 ●従業員が給与天引きで寄付できる体制の構築  
 ※2008年度寄付金額33,517千円  
 ●株主総会(経営説明会)でのブース出展スペースの提供  
 ●全体会議および研修会での、取り組みの説明機会の提供  
 ●SAJの活動報告月刊誌「Smile通信」を配布する機会の提供  
 ●グループ各社による法人会員寄付  
 ※2008年度寄付金額960千円



## 特集:NPO法人「スクール・エイド・ジャパン(SAJ)」



## SAJの特徴は「全額現地の支援費に」

SAJでは、皆様からの会費・寄付・募金は、「1円残らず現地の支援費にすることを基本方針として活動しています。事務局の経費は、「経費指定寄付(用途限定の寄付)」で賄われ、皆様からの会費・寄付・募金は、事務局の活動費には使われていません。

### 活動内容①

#### 教育環境の提供(学校建設支援、教材・教具・図書提供)

開発途上国においては、学校教育は子どもの基礎学力の向上を組織的、効率的に行うために特に重要な役割を果たします。より多くの子どもたちが教育を受けられるよう、小学校教育を中心として中学校にも支援活動を行っています。2008年3月末には累計107校の学校建設支援を行いました。2009年度はカンボジア13校、ネパール3校の建設を予定しています。

### 活動内容②

#### 教育機会の提供(学費支援制度「ふれあいサポートプラン」)

2008年度は、827名の子どもたちに制服、ボールペン、ノートを支援しました。



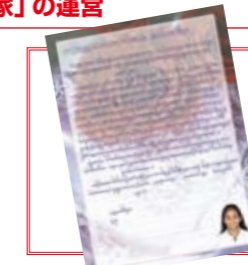
### 活動内容③

#### 孤児院「夢追う子どもたちの家」の運営

2008年3月19日に、カンボジア・ポーサット州にSAJ初の孤児院「夢追う子どもたちの家」が開園しました。

「80人の子どもたちの幸せのためだけに運営する」を方針とし、子どもたちが勉強する学習室や、働く場所として畑・果樹園などをつくり、しっかりと生活習慣とあるべき人格を身につけ、自立するまでのサポートを行っていく予定です。

2009年9月現在、66名の子どもたちが入園し、元気に毎日を送っています。定員の80名の児童を迎えるため、カンボジア各地の孤児の調査・受け入れを継続的に実施していきます。



#### 勉強するトンガさんからの手紙

「夢追う子どもたちの家」に住んでから私の生活は明るくなりました。私は心配することもないですし、やらなければならぬことは勉強だけです。私の子どもの時からの夢はお医者さんになることです。貧乏な人を、助けることができるからです。



### 活動内容④

#### お米支援

2006年の開始から2009年3月までに累計3,662名の子どもたちに毎月12Kgのお米を支援。また12,000人の子どもたちに1日1回の「給食支援」を実施しています。



「朝食がある学校に行くのが楽しみになります。毎日食べる物があると思えるだけでとても幸せな気持ちになります。」

